

平成 26 年 9 月 15 日

## 邑楽町中央公民館建設設計者選定競技 総括

邑楽町中央公民館建設設計提案審査委員会  
委員長 和田 幸信

邑楽町中央公民館建設設計者選定競技では、邑楽町に建築関係コンサルタント業務の入札参加資格を持つ 235 社の中から、事務所所在地などの条件により抽出された 71 社に対し、業務実績調書の提出を依頼した。調書の提出があった 47 社に対し選考を行い、その結果指名された県内外の設計業者 9 社を対象に審査を行った。

審査は 2 段階で行い、非公開、匿名で行った第一次審査では、最終的に設計提案書の提出があった 5 者の提案に対し、各審査員の考えを発表してもらう形で意見の交換を行った。審査においては、設計提案書作成要領の「具体的な提案項目」で求めた 5 つの内容に対して、提案内容の具体性、提案書の完成度、リアリティの有無など様々な角度から議論を行い、中でも敷地周囲を含めた建物の調和やランドスケープ、役場庁舎や図書館等を含むエリア全体の敷地活用、関係付けを重視して評価した。

その結果、敷地の特性に対する解決法、公民館・ホール各部門の連携及び計画、提案内容の検討濃度などを評価し、2 者を一次審査通過者として選定した。通過した 2 者は事前に町民に対して実施していた一般公開におけるアンケート投票結果の上位 2 者と一致しており、審査委員会としても町民に関心を持って提案を見てもらえたこと、興味の高さを改めて実感することができた。

二次審査を行うにあたり、一次審査において審査委員が本中央公民館の建設において重要であると考えた、概算工事費、延べ面積の根拠について、両者に追加の要望を行い、二次審査に提出してもらうこととした。

二次審査では、提案者による公開プレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの順番は、提案者による抽選とし、(株)日総建、(株)新居千秋都市建築設計の順番となった。持ち時間は 50 分で、提案者による自案の説明を 20 分以内で行い、そのあと審査委員による質疑応答を 30 分を行った。ここまですべてを公開で行い、その後は審査員だけで審査を行った。

審査では、各提案内容について検討を加えた結果、提案としての完成度の高さ、建物外部との関係性への配慮、メインアプローチからの視線などをはじめとした外観や周囲の景観への配慮等で総合的に優れていると判断された(株)日

総建を最優秀提案者とし、(株)新居千秋都市建築設計を次点の提案者とした。

以下に審査委員会での審議内容をもとに両案の講評を行う。

#### < (株) 日総建 >

内部空間と外部空間の相互な関係性を含めた提案として、バランスの良い建物配置と敷地全体への活用、及び中央公園周辺(町の核)を含めた領域が総合的に巧みに計画されている。西側駐車場についても、多少裏手に見えてしまうが、公民館、図書館利用者にとって使いやすいだけでなく、舞台への搬入場、既存図書館の南面を視覚的に開放する効果もある。敷地南面から層状に配されている3つのホールについても内外相互の利用の幅を広げており、人が集まることと、活動の様子を意識している点が評価できる。

ホール・公民館各部門が独立した動線で機能でき、空のホールをはじめとした屋外空間と屋内施設との連携や、天候に左右されないイベント運営・軽スポーツへの相互な多目的利用と効果も期待できる。

南、東に施設を開くことを意識している一方、図書館やあいあいセンターなど北側の建物との関係への意識がやや希薄な感があるが、両方向に対応していくことも充分可能な提案と思われるので、さらなるプランの改善に期待したい。また、今後発注者や町民とプランを練っていくことになるわけだが、建築に不可欠な個性と協調性について、本提案は協調性についてはよく練られていると思われるが、場所性と個性をよりデザインに鮮明に打ち出していく設計姿勢を期待したい。

#### < (株) 新居千秋都市建築設計 >

円弧状の敷地を意識しており、大屋根による構成にも特徴があって、町のシンボルになりえる計画である。駐車場配置の利用勝手もよく、敷地外周の半円形道路をプロムナード的に使用できる点も魅力的である。図書館、庁舎を外回廊でつなぐ積極的な提案は雨天時の利用を配慮しており評価出来る。

内部の計画では、文化のストリートを軸に内円、外円と諸室を配し、デッキによって外部との関係を密にする点や境界性の演出は評価できるが、大屋根、平屋、大ガラス面に囲まれた大空間という本提案の利点と難点の把握、例えば熱負荷やメンテナンスについて疑問が残った。また、ホールの配置について役場庁舎に面する東側や南面が閉じており、中央公園側からあいあいセンターに向かうアプローチからのビューへの配慮に疑問が残る。

また、住民とのワークショップにより様々な形の変更・改善が可能な姿勢は高く評価できるが、その中で設計者が考える本提案の実現性と変更した後の空間や建築のイメージがしづらい点は残念だった。